

京城日日新聞

電話 編輯 一三三 營業 一三三 九八一番

本紙定價 一ヶ月金 … 三ヶ月前金 … 郵税一ヶ月 …
廣告料金 五號活字 一行 金壹圓 六號 一行 金… 貳號 一行 金貳圓

發行兼編輯人 島村 …
印刷人 松崎宗太郎
發行所 朝鮮京城永樂町二丁目七二 京城日日新聞社
振替口座京城八〇三七

東京支局 東京市麹町區下六番町一〇 電話九段一八五〇
大阪支局 大阪市北區堂島中一丁目三六 電話北七五五番

社説

朝鮮の時局に對して(一)
民心の惡化

釋尾春芿

朝鮮の時局惡化、朝鮮の民心惡化は昨年春の騷擾以來世人周知の事實にして今日と雖も日々の紙上に不逞鮮人の跋扈、爆彈騷ぎ、掠奪、殺傷等の凶報を傳へられざる無く朝鮮の警察は此不逞鮮人の搜索と取締に忙殺され部鮮は常に不安の空氣に掩はれ居れり、目下討伐中の北境及間島方面の暴徒の如きは朝鮮不穩の空氣が最も猛烈に朝鮮の一部に暴發せるものなり、琿春事件の如きも馬賊團が其主體を成せりと雖も、不逞鮮人其中に加はり最も獰猛性を發揮せる模様なり是等の暴動は邊境に起りしを以て民心を刺戟し民心を擾亂すること甚だしからざるも、若し是等暴動が朝鮮の要部に起らんか、民心は一層擾亂し、天下は震駭驚目するに至らん、併し是等邊境の暴徒は我軍隊の威力に依りて日ならず鎭定するに至るべし、又不逞鮮人の跋扈も、我警察網の完備するに從うて漸次屏息するに至るべし、現に現下の不逞鮮人の狀況を昨年より本春に至る間に比するに著しく其跋扈の跡減じ、不逞鮮人事件は著しく減じて警察も一息つき居れりとは當局者の言明する所なり、赤池警務局長初め齋藤總督東上中、朝鮮の時局は漸次平定しつゝありと說き廻り居るは必ずしも泰平を裝はんと欲するにあらずして、朝鮮目下の形勢は彼等をして此樂觀說を宣傳するに至らしめたるもの如し、而も是れ比較的の話にして、今日の形勢は之を本年夏以前に比するに事件減じたりと云ふ迄にして、之を以て朝鮮の形勢は警察の取締行屆くと共に漸次不逞鮮人跋扈の跡減少したりと云ふは餘りに早計なり、且つ朝鮮の時局形勢は飽る平靜に歸したりとは言ふものゝ、尙各地に不逞鮮人の出沒絶えず、不穩の陰謀日々絶えず、一難にても油斷せんか京城の眞中に爆彈騷ぎ何時起るやも保し難きは餘らざる朝鮮現下の形勢なり現に總督府は兵士の門衛を設き日夜警戒を怠るを許さざるのみならず總督府の懸下には、警官の張番を要すと云ふ有樣にて總督府は晝夜共武裝の中に在ると云ふ狀態にして、總督、政務總監の外出には先づ相當の警戒を勞し、人々して置かざれば危險なりと云ふ狀態なり、京城を初め朝鮮の全土は實に不安と不穩の空氣の中に包まれ居れりと云ふべし、是等不逞分子は警察網の行屆くのと、警戒の嚴しき手を緩むる能くんば、或は漸次屏息して一時は朝鮮の不穩を回復する事を得べし、而も彼等はピンデーが烽火の照破に依つて一時せられんか、直に這り出て人の血を吸ふ如く、不逞鮮人は機會ある每に妄動を起して永久其跡を絶たざるは、苟も朝鮮の事情に通じ、朝鮮の形勢に精通せるもの、齊しく首肯する所なり、朝鮮は恐らく永久に戒嚴令を布ける如き狀態を脱するを許さず、警察網の嚴重と警察の努力を要すると共に出來得る丈け是等不逞漢の根據を破壞し、不逞漢を根本的に掃蕩する根本方針を立て之を忽としくく敢行するの勇氣無かるべからずとするものなり、吾人は今日の總督府の態度は文化政策を溫柔政策の誤に陷り、是等の不逞鮮人掃蕩手段に對しても、甚だ不徹底を免れざる嫌ひ無きかと憂慮して措かざるものなり、而も是等不逞鮮人も朝鮮内に於ては取締の手を嚴にするに從ひ或は漸次屏息し、又漸次根絶し得ずとも限らず、而も不逞鮮人は多く國外に根據を構へ居れり、國外の朝鮮人は多く不逞鮮人の色を帶びざる無し、是等國外に於ける無數の不逞鮮人を如何に取締如何に根絶し得るか、是れ恐らく永久に不可能の問題たるべし國外の不逞鮮人にして根絶し得られざる以上は朝鮮内の不逞鮮人も終に根絶し得る機會無く、朝鮮の安寧は絶えず齎かさるゝを免れざるなり、我朝鮮總督府は此根本問題に對して如何の考案と手段を有するか、吾人の聽かんとする所此に在り。

入韓記(一)

長風山人

△余は十年振りに京城出張を試むべく茲に數日間不知火寄宿に先づ旅裝を解きたり、東京より熊本を經て玄海を渡りて京城に入れば、秋色已に七分を占め、滿目の風致を感ずるの運命に會し離なく朝鮮の秋を觀ふの感興に亦し、先づ十年間は賞活し、秋山を眺き、秋光を迎旅の休憩を得たるを自ら祝賀せざるを得ざりき、東萊先生曰く出仕猶ほ然家居要見観の事とは今日の事なりや

△大正八年秋夏全滿洲巡廻の途次京城を去り、市街を過ぎて行人の享樂に飽きたるが如きを目撃し又其鮮人の顔色を見て彼等が得意の絶頂として我等に誇れるを見て、甚だ奇異を覺えたるに反して今や到る處排日の潮流は漲り不景氣の秋色は各處に滿ち、彼等が其享樂を顧み、其不平と怨恨を排日に歸色せしむるを見て人事の變化世運の改轉の急なるに驚かざるを得ざりき

△時恰も米國議員團通過後の事とて鮮人は恰も債務者か力強き保證者を得たるの心地し、日本人は債權者が其權利を喪失せんとするを憂ふが如きを自認したり、余は斯る時代の出來事を變度か經驗し、變度も際會したりしことゝて、我京城の生活の復活に何んとなく妙な社會せなりしを感ぜざるを得ざりき

△余は翌日總督に面謁し、總督の藹然たる態度、溫和なる風貌其悠くたる態度に加へて總督の風姿に接し、排日氣分が風雨滿壤の光景に似ず、偉大なる安全地帶に入るの心地せり、總督、余に向つて時局は急がずして聞くべく、事情はゆつくり擧げざる可らずと云へり、余は片言雙語の間に於て力強き心地して歸りぬ

△余は總督邸に出入すること前後三十年也、今余は總督と對談せる間に於て大鳥公使の白鬚を想起しぬ、三浦公使の哄笑しつゝ我等に會席談笑を傳したるの一夕を追憶せしめたり、余は七年間一日も新聞を休まず、總督邸に朝鮮を談じ、鮮人を說くを思ひ浮べたり余は伊藤公時代の數年を考へつゝ公に接見せんとて茲處に群集せる來客の中に於て多くの舊友を懷ひ起したり、寺内伯の嚴格なる軍隊式の禮節を想像し、獨り自ら顧みて我々として我寂寞なる一生を懷ましざるを得ざりき、邸を辭し坂を下りて、我ながら三十年間の巡禮を追懐しみ、我不遇を憐むの感々たるを禁えざるを得ず

△余は永樂町の小旅を上り、我寓居の草庵を過ぎ、嚴冥を訪ひ君の時局觀を拜聽せり、君は今ま日々紙の經營に從頭し乍ら、大勢を支ゆるものの方略を觀くに躊躇なるものを審人に聽かしめたり、嚴冥君の居所は十年前李完用伯の家居なり、余は伯の最終の兼要役を力めたる一人なり、若し余なかりせば李完用伯は今日存在せざりしなるべし、伯の榮達は、余が親米黨より親日派に豹變したる努力に依るものなり、余は伯の事を思ふ每に不思議なる運命を語らんと欲す、然れどもそは餘り露骨にして演劇的なるべし

△詮すれば機關より會見を促せり機關は余ヶ何事も合致せざる朋友にして、余は機關の長所を全部所有せず、然れども朝鮮の國事に就ては必ず符節を合し、實業を貼付するが如くに相抱合して相語り相謀り、相約する相愛の誼あり此日亦相會して時事の非を歎き、其對癖の計を議して別れたり、彼は何事も主觀論者なり、余は何事も客觀論者なり、主客相合すれば其權庭は知るべし

明治神宮(上)
拜觀の記

在京一記者

「今度の祭典の人出は至く想像がつかない」と半練富で中心配する村越工務所關主任を案内役として七名の一團が秋の日短しと大牛出來た參道を北へ歩く隣織の暗く茂つた密林の中から冷々と微風が襲く「上野公園の取締も厄介だが此處はどうでせう」警視廳の松本警部が警視廳の警備に「縫工の頃は十管の中から煙が四匹も出たんだから物凄くて迄も……」と村越氏が禁制すると酒井交通課長は苦笑する北參道入口右手に警官の臨時詰所と其の後とか設置されるので赤十字社の人が三人配置と此處で鳥渡打合せがある鳥居右半の高さ二丈餘の檜は奈良の天理教徒が三百人で板橋から曳いて來た獻木だそうな「大抵夜分にばかり運んだので獻木中の最も大きいものです」と村越氏の註が挿入る明年十月に竣成するといふ寶物殿から警官が丁々と聞こえて來る此の屬の森は想々揃つたので鮮の芝生に坐つて遙か本殿の方を仰ぐと一帶の森林が丘の様に盛上つて見えるこれが西參當りで東京府の獻木「どうも新宿のタンクが見えて威厳を損するので」と村越氏の苦心談の一端がある西參道入口左り手一帶の待林が昭憲皇太后が嘗てお採りになつた遺跡で而も夫れか便所の附近に見えるので恐縮する此の邊りより西神門に達する一道は幣き玉川砂利を敷詰め両側と廣い芝生の緑の巣は油繪に見る様な森林で縁取つてゐる

比律賓紀行

小林淺吉

(九)

(二)馬尼剌市

イ 馬尼剌市鳥瞰

二、市中見物

之れから有名なタフト、アベニユーの大通りを車を走らせる。中央病院、馬尼剌大學、師範學校、中央小學校、女學生寄宿舍、市役所、印刷局等、何れも鐵筋コンクリートの宏大な建物である。此の周圍を車を走らすこと約一時間半。此の邊りの様子も大體頭に這入たので後で悠然又見物し直すことゝして再びタフト、アベーの通りをエスコルタの方角へ引返す。

一體比律賓城の周圍は全部を公園と稱して宜い。西班牙統治時代からルネタに掛けての一帶は、縱横に道路が貫通して、電車も數線通つてゐるが、道の兩側は何れも一面の青々たる芝生でファイヤー、ツリー、擯榔樹、ノニツパ椰子其他數十種の樹木が配置よく植てある西班牙橋に近く、製氷會社と郵便局との前には植物園があつて、島獸の檻も數多あり、園内は縱横に道が仕切つてあつて、ベンチ、音樂堂、四阿屋の設備もあり、馬車は今此の極權園の方へと悠然に走る、彼の緑な芝生、青々と大きな葉を心持風に靡かせてゐる椰子、其他の樹、今を盛りと咲き誇る眞紅なファイヤー、ツリーの花、南洋氣分は四方一面に漲つて何とも云へぬ愉快さである。馬車は植物園の手前を右に折れて、エルミタ區コロン街に入ると、右手に小さい日本人商工會の建物が見える。此邊には日本人が大分住んでゐる。パシッグ河に臨つた欄を越つて、サンミゲル區の町々を走らすと此キヤツポ區に入ると松井バザア、田中商館など、日本式の看板が次第に增して來る。此區は尤も日本人の住んでゐる處で、アスカラガ街の日本領事館裏は、土人家屋と日本人の住宅とが飛び交りながら、宛然たる日本人町を構成してゐる。日本人旅館の日本ホテル、藤田旅館、其他數軒の旅館も、此邊に散在し日本雜貨店もキヤツポバザー其他數軒あり住人は直に大工で、移民が初めてマニラでの一夜を明すのは、大抵此のキヤツポ區である。

隨筆錄

伊達藝妓物語(四)

ころう生

他人から羨まれゝば、後へは引かぬと云ふ氣質の老松も今日と違ひ、まだ主人持ちの抱えの身であつた、時には嫌なお客の機嫌も取らねばならぬ事も度々あるので、いくら氣丈の彼の女も人なき部屋に身を忍ばせて、女の身の果敢なさを打ち喞つ事も鮮くはなかつたが然しさうした心の反動は纏て老松をして、男の誰れ彼れを弄ばせ詰まらぬ旅役者と浮名を流して土地の者共から嫌はれたこともあつたが、もとより當人はそんなこと評判には一向氣にも止めず「奈せ變り者の妾なんてすから、自分の好いた男なら、乞食でも泥棒とでも構はずに遊びますよ」と云つてせゝら笑つてゐた

斯うした變つた氣性を持つた老松の名は一層世間に廣まつて、甲府市大小の各新聞から「山梨の花」と稱へられ、連日何れかの新聞に老松の記事を見ぬ日は殆ど無い程であつた、と間もなく甲府の花柳界で「老松の後を(老松)相生の松の緑の葉草や互に手に手を取千松園に驚しい首尾の松」と松づくしの歌が一時盛に流行した此れは云ふまでもなく、名物藝者老松を諷して、土地の新聞の口から産み出されたものであつた

「山梨の花」とまで稱へらるるに至つた老松は、一生を甲府の土地に埋もれ木となるにはまだ惜しかつた寄藥は嬉かしき生れ故郷の東京の土地が戀しく、戀はしく臨に浮ばれて、日に日に東都しの悩は增すばかりに伊達の老松も、遂に此の悩みには打ち勝つことが出來なかつた

大正二年の二月老松はいよいよ甲府の土地を棄てゝ上京し、新橋の驚近江から現はれることゝなつた、此の事が早くも土地の花柳界に廣まり、通人粹客の間には大恐慌を來たさせた。名物藝者の老松が去つては甲府の花柳界は暗黒とあつて、種々手を盡して引き止め策は講ぜられ、土地の新聞からも惜まれたが、思ひ立つたからには縱の道を離にでも車を挽きたがる老松は、是れには耳を藉さなかつた

それでも連日老松のための送別會の酒宴が開かれて、上京が倖めに十日間も遅れたと聞いても、其の全盛の程が察せられるではないか

二月十五日新橋驚近江の藝者として現はれた老松は、果して持前の愛嬌が圖されたか、事實は反對に只會甲府以上に歡迎されて行き、經驗は勿論、抱主中出先の待合料理屋等の人々の眼を驚かせてゐた



内外電報

婆軍齊多を占領す
セ將軍飛行機にて逃走
日本委員の消息不明

二十二日北方より來れるパルチザン隊チタを占領し他の一隊チタ東方二十哩の鐵道を占領しセミヨノフ軍アクンヤに向ひ南方に退却中（浦鹽來電）

別報　パルチザン二十三日チタを占領しセ將軍は飛行機にて逃げたるが日本委員の消息不明なり（浦鹽來電）

別報　臨時國民議會はチタの政權を掌握しルクサ將軍總司令官に任命されセミヨノフ將軍は飛行にてダウリヤに逃げたり（浦鹽來電）

世界の視聽を集む
英炭坑罷業の前途

英國炭坑夫首領者中の首領は炭坑夫聯盟會に對して援助を求め來たれり而してフオルウエルチ紙は論じて曰く獨逸の坑夫は罷業の成行きを甚大の注意を拂ひ英國の罷業坑夫に對し迅速に成功を望む旨電報を發したり又勞農露國の某代表者は坑夫に與ふる宣言を發して全世界特に露國は今回の事件に深く注意を拂ひつゝありと（伯林來電）

政府の意平和に在り
英首相下院に言明す

英國首相ロイドジョーヂ氏は鐵道從業員並に運輸勞働者の罷業の決定せる後罷業問題に就き二十二日下院にて左の如く語れり

政府は今尚ほ平和的解決に對する努力を拋棄せず鐵道從業員の此の行動は今後の交渉を困難ならしめたり（倫敦來電）

一日三萬の罷業者

坑夫罷業の結果倫敦に於ける失業者毎日三萬人宛の割合にて增加し二十日政府が是等失業者に支拂せし救濟金は三萬磅に達せり（倫敦來電）

遂に大事に至らん

運輸勞働者大會議は二十一日を以て終了せり書記ウヰクム氏は發表して曰く向ふ二十四時間以内に於て政府と坑夫側との間に何等か具體的事實發生するに非ずれば事件は遂に一變して勞働者全體と政府擁護者との間との爭ひとなるべし（倫敦來電）

ウイルナ問題回答

波蘭獨立部隊のウイルナを占領したる結果形勢紛糾したるものなれば波蘭は全然右行動を休止せざるべからずと謂へる英佛の聯合通告に對し波蘭外務大臣は問答書を發して曰く波蘭は決してエストニアとの休戰條約に違反せずと外相は所書しツエルコフスキー將軍の執りたる行動を否認し波蘭は國際聯盟の決定を遵奉すと謂へり（ワルソー來電）

赤化せる者一萬人

上海吳軍使は浙江督軍より過激派に關して大要左の如き電報を受取たり

探偵の報告に依れば我支那過激派首領陳獨秀は目下露國過激派首領トロコフトと大金を携へて上海に來り各工場の勞働者に金圓を與へて運動を試み既に過激派に入黨せる者一萬に達せりと彼等は共產主義にして地方の秩序安寧を攪亂せんとするものなれば速に嚴重取締ると共に工場主に勞働者の入派を防ぐやう通告されたし云々右に就き吳軍使より旨を議商工總會及各工場主に通告し過激主義の侵入を防止しつゝありと（上海來電）

山東問題と聯盟

和約研究會にては二十三日例會を開き引續き國際聯盟に就て研究せるが山東問題を聯盟總會に提出すべきや否やに就き決定をなすべし委員の多くは國際聯盟に提出するの論據なきを知れるが大體に於て聯盟會議の切迫と共に聯盟に提出せよとの議漸く高まり來たれるを以て與論に斷固として明確なる決定をなすに躊躇しつゝあり或は最後迄態度を曖昧にして聯盟委員をして山東の所置を熟らしめ形勢に依りては聯盟會議に提出するに至らずかと察せらる（北京來電）

佛派遣軍引還す

最近當局者の情報に依れば過激派軍に就きたる西伯利派遣佛軍司令部は途中より極東へ歸還すべしとの本國よりの電命に接せりと（浦鹽來電）

郡制廢止案提出

床次内相は郡制廢止案を第四十四議會に提出すべく言明せるが…

檢事志望者減少

樺太鑛山採掘

中旬鮮鐵業績

編成難
來年度豫算と內閣の苦境

石塚總裁大連着

積極方針

猶三億の

財源に窮

空手形と

吉林省木材事件一先づ解決

セ將軍獨逸行

滿洲馬賊兵數
武器及所在

現狀維持に傾く

浦潮政府豫算

京畿評議定員

釀造品々評會
出品審査終了

浦潮木材騰貴

浦潮貨不動

浦潮政府銀貨發行

私鐵協會總會

褒賞授與式

警戒すべき反動期（下）
貸出回收困難と預金增加

遅々たる

反動期に於て

土木協會總會

平元線具體化

水原附近米作

紡績會社窮迫

故橋香橘追悼會

司令官邸晩餐會

日曜學校大會報告會

署長會議日程

那波所長入京

中野正剛氏講演

新舊店長招宴

重井兵器本廠長

朝鮮學生大會

私鐵協會理事

風塵錄

株式界

商況

二十三日大阪入電後場

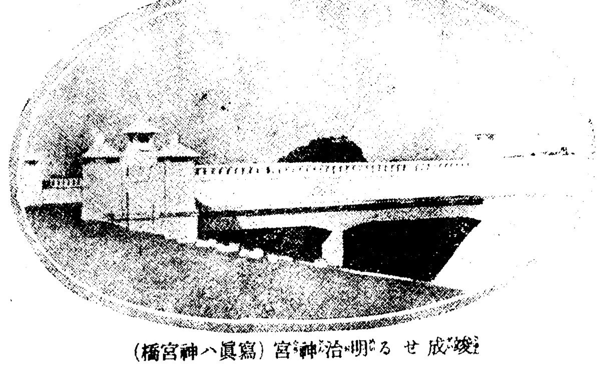
二十三日東京入電前場

京株市場出來値

仁川期米特電

東京期米特電

大阪期米特電



竣成せる明治神宮（寫眞ハ神宮橋）

第六回の内國勸業大博覽會計劃

政府も開催の臍を固めた　德川公や後藤男の慫慂で

第六回內國勸業博覽會は嘗て大正十一年に開催する事として內地の各種生產品並に原料は勿論朝鮮臺灣及び歐米諸國の製品及原料の出品を慫慂し以て安價にして完全なる原料並に機械を紹介することゝし德川公後藤男其他各方面より屢々農商務省に對して建議し同省に於ても豫ての計畫もあり目下其方法に就き研究中なるが結局委員會を設置して案を作成せしむることゝし今期議會に右博覽會開催の準備費を要求すべしと（東京來電）

發達し

最近十年間に於ける產業は歐洲大戰後著しく發達し近時世界各國其戰後經營として自國產業の發達に熱中し我國は自然是等の壓迫に依り大打擊を見んとし且つ財界の不況に鑑み此際內地產業發展の爲第六回內國勸業博覽會を開催[illegible]

陸軍秋季機動演習

壯烈無比なる南北兩軍の主力戰

鳴鶴洞高地の爭奪に火蓋を切り　硝煙天に張り砲聲山岳を轟かす

岩崎少將自ら陣頭に立ち　北軍全員の大突擊

第二報　於水原　本社特派員

二十三日午前九時四十分支隊の步兵は早くも南軍の此擧を看破し直に步兵第八十一聯隊を街道の西側に[illegible]約一里北方の高地を占領して同七十七聯隊を東側に展開して頭部に北軍前衞部隊の前進を阻止[illegible]せんとせしかば北軍前衞部隊は已に[illegible]

總攻擊を

開始し纔くに之れを驅逐して同十時三十分完全に安寧を占領す[illegible]

機銃鬪隊

[illegible]

東京御名代　行幸は御取止

來月一日明治神宮鎭座祭典に天皇陛下行幸あらせらるゝ筈の處御都合により皇太子殿下を御差遣御代拜せしめらるゝ由[illegible]

難行軍を

續け居たる[illegible]

肉彈戰を

[illegible]

城壁を固

守し城門を[illegible]

拂曉を待

ち更に敵[illegible]

重圍に陷

り[illegible]

吶聲を擧

げつゝ水原[illegible]

南軍餅店里に退却

淚を呑んで　北軍の追擊頗る急なり

此戰鬪に於て南軍遂に利あらず[illegible]

第二の戰

鬪に移るべく步兵第七十九聯隊の一[illegible]

長驅して

南軍を急追[illegible]

死守し以

て餅店里附近[illegible]

遂に混亂戰に陷る

水原に於ける市街戰　北淸事變を髣髴せしむ

（午後四時記）

[illegible]

統監部前進　軍司令官歸京

演習開始に共に二十四日夜水原市街に前進し同夜禿山里附近に於ける[illegible]

增援隊を

待ち一擧に[illegible]

演習雜觀

[illegible]

賊軍算を亂し潰走す

頭道溝の遭遇戰　賊の損害頗る多大

間島方面よりの情報に依れば二十二日頭道溝以西鼎鶴洞附近の山地に於て賊徒四百と遭遇し頑强に抵抗したるを以て之に一大打擊を與へ目下退擊中なるが賊は算を亂し山中に遁竄しつゝあり賊の損害頗る多大なり（奉天來電）

機關銃其他を　鹵獲す　捕虜五名

[illegible]

賊八名を射殺す

二十三日討伐隊は[illegible]二十名を下らず

陶道尹引揚ぐ　詩趣溢る　留別宴

[illegible]

明治神宮　地鎭祭當日は

六千の警官で取締る[illegible]

天長節の園遊會　總督官邸に

總督は來る三十一日天長節の佳辰を奉祝する爲同日午後二時より官民の重なる人々を官邸に招き園遊會を催ふす由にて二十三日在京城紳士淑女約二千名に對し案内狀を發したり因に目下總督東上中に付水野政務總監代つて主人役を勤むべしと

能ふだけ一般の希望に副ひ度い

缺點もあるが長所もある　逐次改善を施す考へ

と新任の志賀總督醫院長語る

手短かに

[illegible]

社會の罪か己が罪か

浮ぶ瀨もない藝者サン

賣られた小鳥は鋼や鼓や三味白粉あたら操を黃金に換へての浮苦勞

慣ればそれをミエにして　二

[illegible]

皮相的

[illegible]

黃金こ

[illegible]

吸血鬼

[illegible]

仇し枕

[illegible]

足を洗

[illegible]

理窟よ

[illegible]

疑問の左手

義太夫藝妓梅若

（下）

干柿の樣な掌の來歷

危く片腕を失ふ處だつた

[illegible]

赤蛙を

[illegible]

丹毒と

言ふ恐るべき病[illegible]

打ち消

しては居るけれ[illegible]

色戀や

[illegible]

不思議

[illegible]

外科など

[illegible]

貧困を裝

ふて支拂ひ[illegible]

藻搔いた

[illegible]

東支鐵道の大慘事

汽鑵手の居眠りから　物凄き列車の正面衝突　客貨車三十餘輛粉碎

死傷三百名に達す

[illegible]

待避驛に

[illegible]

停車中の

[illegible]

現場に向

ひ[illegible]

虎疫續發　軍艦日進に

卅三名眞性と決す

[illegible]

射殺された郡守の弔慰金　募集に着手

[illegible]

旭映會を聽く

[illegible]

大連奉天間の二百五十五哩を突破す

マラソン競走

[illegible]



小栗判官 照手姫

（百九） 旭亭樓山口演



竹法螺で山の捜索

職師を見かけて後藤兵助は心から 兵「五左衛門殿に會つて詫言が致したい、又力を借受けて此山を探しても見たいどうか一つ水上村へ連れて行つて呉れ」○「おやマア〱何だ、事々も人の騒めだ、お前さん方を水上村へ連れて行つて上げませう、サア〱郷座らしやい〱」水上村は名ばかりの村で家數も至つて少い、五左衛門の家は一寸大きい家でございます、表から破鐘のやうな聲を張り揚げて ○「五左衛門さんござらやしやるか」五「ハイ誰だい」○「背戸家の辰中郎でがす」五「何で來なすつた」辰「御前さんが折角親切に致へてやるのに、却て泥棒だなんぞと間違つた彼の旅の者を連れて來た、その罰でもあるめえが、女を鬼賊に攫はれたといつて困つて居らア、誰も立たうけれど五左衛門さん、此通り皆悪いと思へばこそ此所へ詫まりに來たんだ、許してやつて御呉んなせえな」五「アツヘ……さうか、サア〱皆さん此方へ入らつしやい、人の言ふ事は肯くもんだよ」兵「誠に今面目次第もござらん十九や二十歳の者ならば兎も角私のやうな年を老つた者が貴所方を疑ひましたのは面目次第もあざいません」五「シテ旅人さんは、何處から何處へ通らつしやる」兵「何地を的ともなく武道修業など致して歩く者でございます」五「ハア其の武道の修業をする人が、昨日は美しい娘さんを連れて所在だつたね」兵「彼れは或山賊の手に攫はれた、其れを吾々が事情あつて、山賊を退治して奪ひ返へて是から親の所へ送り遣はさうとするのでござつた」五「さういふ事情のある婦人か」兵「それを風に攫はれたでは何とも我元に申譯がござらん、御迷惑ながら捜索の舒力方を顯ひたう存ずる」五「至に角皆の衆、支度を解いて上らつしやい其處でも仕方がない、急いだ所で仕様がない宜うしうございます、今其れぢやア山に隠れた者を集めて捜して上げませう……誰か其處に居るか」△「ハイ」五「門前へ出て竹法螺を吹け」大勢は集まりましたが、捜し物は見付からない日の暮方になつて何れもボツ〱歸つて來ました ○「ア、五左衛門さん駄目でございます」五「お前は」□「西の方を捜しました」△「乃公は東の方を捜したが判りません」×「私は南の方を捜したが判りません」○「私は北の方へ行きましたが知れません」といふ者ばかり、捜し物を見當らないといつて、其儘にしては置けませんから、後藤兵助は土地馴れた者を頼んで、酒を買入れて一同に振舞ひました、五「今日出た者は皆歸つて居るか」○「まだ一人歸つて來ません」五「誰が歸らない」「庄屋の作十さんが歸つて來ない」五「作十の奴は却々氣轉の利いた奴だが、どうしてかな何故歸つて來ねえのだらうな」心配をして居る所へ、エイサ〱と死骸のやうなものを引擔いで一組が歸つて來ました

演藝案内

黄金館 國活會社特約 電話二六六・三六三七
當る十月廿一日より特別名畫公開
冒險劇 岩見重太郎 全五巻
最終篇 名金 全四巻
奇怪を極めし大秘密。驚異すべき國寶は何物の手に奪はせらるゝか。最後の勝利者は。奇蹟的な冒險物語は愈々大團圓を告げるパテー！アストラ會社特別製作
米國名優 日本劇 お雪さん 全五巻
優雅な櫻の花咲く日本の國に生れたお雪さんはバビロンの斷崖に香る白百合の様な純な美しい乙女でございました。けれども美人は薄命才子は多恨の例へにもれずお雪さんと波荒き浮世の風に苛まれし涙多き…お雪さんは…ジョンピクロと…なる仲となりました戀は苦しいもの…人は紅涙哀語に運命を恨むで居りました
ウキリアム、ファンニー、ワード嬢 ローレンス氏 ジョンヒクロー背年 飛行機上より見たる東京
新派悲劇 絶海の孤島 全五巻
怒濤逆巻く絶海の孤島とは誰が名づけた？アラスカの寒水が物淒く流れて來る北海の無人島に今人未踏の秘密境がある、北極探險の壯擧に上つた子爵の若様と島の炭鑛王の令嬢との悲戀悲史？波にむせぶ千鳥の聲にひと一はひ哀れ深い

大正館 日本活動寫眞株式會社朝鮮代理店 櫻井町 電話八七三
當る十月廿二日より提供
實寫「パテー」ニウ第二報 長尺
喜劇「マックスの婚禮」長尺
尾上松之助大車輪 舊劇「金剛傳加茂 小太郎」全五巻
米國メトロポチャー會社傑作 人情活劇 河童退治の大活劇「不思議の目」全五巻
メトロの明星エディス、ストーレイ嬢主演
新派悲劇 山本、東蔭野、衣笠一派總出演「つきぬ縁」全六巻
筑前琵琶彈奏
色に溺れ肉に心も魂も虐げられた男の眼には義理も人情も血も涙もなく藝妓の色香に心を奪はれ四年以來連れ添ふた妻子を離別した、薄命に泣く可憐なる母と子の悲哀極なる切にいかず〱巡る因果祟る罪悪は如何なる悲劇を生まんとする？
毎月一・十五日・日曜日・祭日・晝夜開館

喜樂館 本町壹丁目 電話五九七番
當る十月廿二日より一粒よりの三大映畫提供
實寫 公園の多
滑稽 新島鹿の裁判長
日活向島派最新撮影 新派悲劇 瀧澤靜雄先生傑作 殘る月 全五巻
憐れ薄命な女の頭に投げられた運命の凶彈ほ鮮烈なる響きと共に爆發して其所に血花と散る人生の破綻と曲折は天奈高く消卷起る……嗚呼總ての嵐の後絶て清らかふ奈に殘る月影米國パテー支社アストラ映畫
冒險活劇 驚天動地の大逆轉映畫 電光石火 全卅一巻 第三篇 第四篇 兩雄奕ひたゞず鐵の扉を抜けて 四巻上場
米國一の冒險娘パール、ホワイト嬢主演の大膽極くなき不思議のロマンスを彩れる驚天動地の大映畫
說明者 宮久山、小石田、石田諸氏
日活京都派新撮影封切 武術の極二篇登 關西流 劍劇 柳生又十郎 全七巻
松之助劇の呉觀!!武藝大衆は日本一背景は皆名所舊蹟を出張撮影の上全篇血ありなある國粹保存の武士道劇
●毎日晝夜開館○料金は普通

壽館 本町 電話七八五
十月廿五、廿六、廿七、三日間午後六時ヨリ木戸無料
來る二十五、六、七の三日間於壽館本會第二拾六回目の淨瑠璃大會相催候間御誘合せ御來聽被成下度此段師家へ案内申上候 敬白
大正九年十月 梅竹本奈良 竹本奈良 鶯

朝鮮郵船

元山出帆（取扱店 吉田運輸會社）

行先	日	船名
大阪行	十一月二日	越後丸
下關行	十一月一日	京城丸
江原道行	十月廿六日	鐵城丸
敦賀行	十月廿九日	立神丸
清津行	十一月六日	立神丸
雄基行	十一月三日	會寧丸
浦鹽行	十一月六日	平安丸

釜山出帆（取扱店 大池回漕部）

行先	日	船名
大阪行	十月廿七日	平安丸
大阪行	十月卅一日	新義州丸
下關行	十月廿六日	會寧丸
新義州行	十一月九日	新義州丸
北鮮行	十一月一日	會寧丸
浦鹽行	十一月四日	平安丸
鬱陵島行	十月廿九日	金海丸
江原道行	十月廿七日	濟州丸
濟州島行	十月廿七日	島平丸
木浦行	十月廿六日	宗信丸
新義州行	十一月九日	平壤丸

木浦出帆（取扱店 野間回漕部）

行先	日	船名
大阪行	十月廿九日	新義州丸
釜山行	十月廿六日	瓦濟丸
濟州島行	十月廿九日	慶興丸
多島海行	十一月一日	公州丸
仁川行	十月廿七日	全鏡丸
新義州行	十月廿六日	咸鏡丸
横濱行	十一月四日	櫻島丸

仁川出帆（取扱店 堀回漕部）

行先	日	船名
大阪行	十月廿七日	新義州丸
新義州行	十月廿九日	咸鏡丸
木浦行	十一月一日	全州丸
海州行	十月廿六日	順天丸
鎭南浦行	十一月四日	盛德丸
鬱陵島行	十一月三日	江原丸
鎭南浦行	十月廿七日	櫻島丸

朝鮮郵船株式會社 電話 一一一・一一三・一一二番
釜山支店 電話四一一・四六四番
元山出張所 電話一八四番 元山海岸町
京城取扱店 電話一〇二大 松原運送店
◎當社八汽船、日本郵船會社ト連帶運輸ノ便アリ、之ヲ利用セラレタシ